

生きることと言葉の力（令和元年十月）

（1）「国語力は人間力」

挨拶ができる。人間関係が上手。反省やお詫び、感謝の気持ちと言葉で伝えることや適切に思考し、判断ができ、表現できることが「人間力」と捉えています。そのためには、正しく美しい言葉が使えることです。「国語力」が基礎になります。

（2）「時代が変わる」

情報社会になり、時代が急速に動き、変化していることを身近に感じています。物が大量に増え、生活様式が変わり、社会全体が便利になりました。

時代が変わるということは環境や暮らしが変わることです。しかし、時代を超えて大事にしたいことが「言葉・心」です。

（3）「便利な時代に生きる」

社会の変化は、それぞれの時代の流れです。その流れの中を上手に生きるためには、「変化と上手につきあう」という知恵が大事になります。それぞれの時代を生きてきた体験や経験に誇りして、その力を活用することです。現在は、誰でも上手に生きられる時代になっています。一方、誰でも危機と背中合わせの時代になっていることをいつも気にかけておきたいと思っています。

（4）「豊かに生きる」

「何かのきつかけ悩みがすつとして解決した」「誘われて出かけたらしいことがあった」ということを経験しています。その時々のお会いが、新しい生き方につながっているからです。「縁」を大事にするということをしてでしょう。

「豊かに生きる」機会は、いつでもどこでもあります。機会を生かすには、「ちよつとの手間をかける」「ちよつとの時間をかける」気持ちを持つことだと思っています。「ちよつと話して」「ちよつと社会に関わる」という「ちよつとの挑戦」です。

（5）「書く」とは生きる力

話すことの時代になりました。しかし、書くことは時代を超えて「生きる力」につながる活動です。日常の些細なことに立ち止まることから、想像の翼が広がります。困ったなと思えることが、素材になります。推敲の過程で、使い慣れた語句から新しい語句が見つかります。語彙が広がります。書きながら、新しい自分に挑戦していることが「生きる力」です。喜怒哀楽の感情と上手に付き合える秘訣が「書くこと」にあると思っています。